

# 平成22年度 入来地域 まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 平成22年11月4日(木) 14:00~16:30  
ところ 入来文化ホール  
出席者 市 : 市長, 知識副市長  
企画政策部長, 市民福祉部長, 観光交流部長, 建設部長, 教育部長,  
消防局長, 農政課長, 畜産課長代理, 入来支所長,  
コミュニティ課長, 広報室長, 広聴広報G長  
市議 : 上野一誠議員  
地域 : 各地区コミュニティ協議会長をはじめとする  
地域住民107名  
(合計 131名の参加)

## 各地区コミュニティ協議会の今後の構想について

### 1 朝陽地区コミュニティ協議会 (パワーポイント使用)

朝陽地区コミュニティ協議会は、県道42号線川内空港線に沿って川内川支流の両側に11自治会、戸数250戸、人口640人、少子高齢化の進んだ地域である。米、肥育牛、ブロイラー、ハウスきんかん、茶、ゴーヤ等専業農家が十数戸で、大半が兼業農家である。朝陽地区コミュニティ協議会は4部会で組織している。まず、自治環境整備部会では、コミセンの美化清掃、防犯活動、交通安全運動、あいさつ運動等が主な事業である。

2番目に青少年育成部会では、七夕づくり、寺子屋、子ども料理教室、十五夜、ミニ門松づくり等を行っている。3番目の健康福祉部会においては、スポーツ活動、健康栄養活動、ゆうゆうサロン、男性料理教室、三世代交流(この三世代交流については寒椿会、長寿会、PTA、朝陽小学校の連携で20年に亘る歴史を持っている。)を行っている。最後に、地域づくり部会は、あさひ夏祭り、地区文化祭、日曜朝市等を開催している。今年は蛍の夕べを計画していたが、口蹄疫のため中止した。この9月には、自発的に、地域づくり部会、青少年育成部会、PTA等の若い皆さんが、あさひ温泉団地近くにある「轟の滝」の周辺の整備作業を実施し、その2日間の整備作業をほとんどボランティアで進入路まで整備していただいた。滝の正面まで楽に行けるようになり、幻の滝が、美しい姿を見せることになった。早速、小学生と保護者が滝の見学をしたり、いかだ遊びに、泳ぎ

にはしゃいでいたようである。今後、地域にある山城(コミセンの裏山)、ストーンサークルがある神籠岳、国指定の有形文化財新大橋等駐車場の整備や各地にある田の神等の一円の整備を行い探索コースに位置付けたいと考えている。コミセン発足と同時に復活された朝陽太鼓踊りの継承はもとより、棒踊り、川流れ節、鷹踊り、俵踊り等の伝統芸能の中から1つでも早く復活しなければ、ますます継承が難しくなる。地区の高齢化が一段と進む中で、自治会運営が困難になっている今日であり、協議会も一緒になり何らかの手伝いができないものかと話しているところである。将来は、自治会の合併も視野に入れていく必要があるかと話し合っているところでもある。まずは話し合いのテーブルに着くことでもある。

地区の活性化の一つとして、例えば、農地水環境保全事業に取り組んだ朝陽緑の会では、3年目になって、自治会の生活道路、用排水路、農道の補修や放棄地の草払い等を行っている。また、朝陽上を考える会、集落営農で1年間何回となく話し合いを持ち、今後必要性を認識し合ったところである。今年度より、3自治会において、緑ファーム生産組合と農地自由委託組合を4月に設立した。現在は、集合地を借り入れ、かぼちゃ、スイートコーン、30アールを用いて共同作業をし、販売を行っているところである。地域づくり部会の行っている日曜朝市に協力できるものと考えている。

来年度より耕作放棄地に受け入れも予定している。当地区コミュニティ協議会の地区間交流や先進地へ研修視察等を行い、さらなる理解と協力をいただき底辺を広げていきたいと考えている。これまではソフト事業がほとんどであったが、ハード事業に取り組むことを話し合っているところである。

## 2 清色地区コミュニティ協議会（パワーポイント使用）

清色地区コミュニティ協議会は、各部会でそれぞれの活動を行っているので、今日は環境問題についての取り組みのみの発表をさせていただきたいと思う。

清色地区は入来地域の中心部に位置しており、まちづくりの目標として、「歴史と文化、人と自然が共存する心豊かな里、清色地区」を掲げている。人と自然が共存するためには、環境問題が必要不可欠となり、地区の合言葉としては「地球にやさしく、自然に感謝を」という表現で分かりやすく地区住民に訴えているところである。環境問題は今、全世界で取り組みがされている。我が国においても自治体はそれなりに努力をしているが、下水道やごみ処理対策はコストがかかるばかりで、財政の大きな圧迫要因となっている。この問題は行政任せではなく、私ども一人ひとりが真剣に取り組まなければ解決しない。

私どもは、この問題の解決手段として、EM菌を取り入れ、環境浄化に取り組んでいるところである。EM菌とは、善玉菌たちによる発酵力といわれ、有害物質を浄化し、水や動植物等が腐る、匂いがする、錆びる、病気になる等、悪玉菌の繁殖等、これらはすべて酸化現象といわれている。この度の宮崎口蹄疫感染拡

大防止にもその存在が大きく取り上げられたことはご承知のとおりである。薩摩川内市が今抱えている産廃処理場問題にもこのEM菌の応用が検討されたことと  
思っている。私どもは平成18年に地域環境づくり部会の中に清流会と水質改善  
委員会を設置し、家庭から出る米のとぎ汁は発酵液に、生ごみは堆肥にする等、  
浄化、再利用に努めているところである。他に野菜等の無農薬栽培、また、家畜  
の飼育、人の健康等、EM利用は無限といわれている。

7月19日の海の日には、2,000個のEM泥団子を清流会が中心となり、子ども  
たちと5つの橋から樋脇川に投入した。また、EM発酵液を学校のプール等にも、  
子どもたちと入れる等、河川の浄化に努めているところである。

8月28日には九州善循環の輪in薩摩川内と称して純心大学で全九州から大勢  
の参加のもと、EM菌と環境に関する一大イベントがあった。清色地区からも二  
十数名が参加をした。地区コミにおいても産業祭等にEMグッズを出店して好評  
をいただいているところである。

また、地区のコミセンにも常時商品の提供をしている。ご利用いただければあ  
りがたいと思っているところである。年に数回鹿児島から講師を招いてEM菌と  
環境問題についての勉強会等を実施しており、すでに14回を数えている。地区  
外からの参加者も多く、皆さん方の意識が変わっていくような気がする。興味  
のある方は、ぜひ参加していただければと思う。1回行って話を聞いたら、「ま  
た行かんといかんどな」という気持ちになること請け合いと思っている。

地道な活動であるが、ダイオキシン、二酸化炭素の問題、環境美化、省エネ等、  
エコライフの啓発と自然環境を整え、そして、歴史に感謝することが私たちの務  
めではないかと思っているところである。このことは、清色地区だけの問題では  
なく、入来地域はもとより、善循環の輪を広げ、人と自然が共存する心豊かな薩  
摩川内市になればと願っているところである。これからも「なお一層きばらんと  
いかんどな」と皆で言っているところである。どうかひとつご理解とご支援をお  
願いしたいと思っている。

※ここで、清流会の方が出て来られメッセージを述べられた。

「地球にやさしく、自然に感謝を」

「EMで生ごみを減らし、川をきれいにしましょう。みなさん、どうぞ、ご協力  
をお願いします。」

### 3 大馬越地区コミュニティ協議会（パワーポイント使用）

「しそっぷ物語」の大馬越地区コミ協からである。本年も大勢の方々にしそジ  
ュースを購入していただき、感謝している。

さて、昨年度は、我がコミ協へ研究視察に9団体157名の方が来ていただい  
た。本年度は10月16日現在、11団体291名の方が県内外から訪問してい  
ただき、その中には、ジャイカの方が、連れて来られた中米のホンジュラスの方々

もいた。しそジュースに大変興味を持ち「種がほしい」と言われたが、時期がまだ早く種はできていなかった。午前中に視察に来られる団体の中には、昼食はいむた池のいこいの村に行かれたり、入来の武家屋敷群の見学をされたりと地域内のいろんな方面にも影響を与えることができつつあるように思われる。

そこで、我々はこれから先について、いかに大勢の方々に地域内に来ていただくことができるかと考えている。自然の景観と地形に恵まれたこの地を活かすことにより、今後大勢の方を招き入れる要素は十分あると考え、清浦ダム周辺の溪流散策道路をつくる計画を立て、地元山之口自治会の住民に話しかけたところ、賛同を得ることができ、昨年度はきんかんの里から清浦ダム下までの約 1.4 km を踏破し、草払いやごみ拾い等を 2 回行った。その結果、国道工事で使用されたと思われるワイヤーや鉄パイプ等が川底等に見受けられ、これらの処理を県へ依頼したところ本年度中に処理を完了していただくことになった。終了後の小道を散策道路として利用することにしており、国有林の部分は市の方で林野庁から借り受けていただき、私有地の部分は、地主の使用快諾を受けることができた。それらをコミ協と地元で管理を行うことにしている。

先月 18 日の南日本新聞に記載してあったが、10月9・10日の両日に、薩摩川内市を中心として、行われた「第10回川に学ぶ体験活動全国大会 in かごんま」で川内川の上流であり、入来の中心を通っている樋脇川の清浦ダム管域に青森県他県内外 19 名の方々と NPO のサポーター 6 名、計 25 名の方たちが沢登りを実施された。天気には恵まれなかったが、皆さん結構楽しく遊んでおられた。我々地域住民としては、危険がないように岸を歩いて同行し、溺れるようなことがあれば、ロープを投げる準備等をしており、また、冷えた身体のために途中で温かい入来のお茶を飲んでいただき、終了後はきんかんの里のお風呂でシャワーを浴び、スッキリとなってもらった。その中のお一人の方が、樋脇の藤本の滝の沢登りとセットにしてもおもしろいとの話をしておられ、我々としても、清浦ダム利活用、内之尾の棚田や銭積み石、国立天文台等を結ぶと、より一層大勢の方々を引き付ける効果があると考えている。

最後になったが、「今せんじ、いつずっと」この看板は入来中学生が考えた標語を PTA で地域内のあちこちに立てた看板である。その一つがきんかんの里の駐車場に立っている。この言葉に大いに感動された住民の一人の方が、コミ協の部会に入っておられ、部活動に積極的に活躍していただいている。我々もそれに刺激を受け、日々頑張っているところである。

#### 4 八重地区コミュニティ協議会（パワーポイント使用）

構想をということだったが、現状を話させていただきたいと思う。八重地区コミセンは八重小学校の跡地である。ここでいろんな活動をしているところである。コミセンの一角にある「拓魂」という石碑は、昭和 20 年から 28 年頃までの開

拓入植が全て終わって解散という時につくられたということである。当時は多いときで130戸くらいあり、500人を超えたというふうに書いてある。非常に盛り上がった地域であった。しかし、今は、戸数50戸で100人ということで、非常に寂しくなっているところである。八重に来られたらぜひ見ていただきたいと思う。

八重小学校からは319人が卒業している。昭和26年は12人の卒業生がいて、最高で25人であった。それからどんどん少なくなり、55年には2人となり、全校生徒が10人を割ったということで、30年の歴史であった。

八重には赤仁田、神岡、水戸、八重の4つの自治会があるが、それぞれ13戸や9戸と戸数の少ないところであり、合計が100余名という数字になっている。年代はほとんどがゴールドで、40歳以下は少なく、10歳以下は一人もいない現状があり、非常に寂しいところである。

組織については、どこも似たような形だと思うが、八重は3つでスタートした部会をスリム化したいということで、2つにしている。3つにすると役員がだぶってくるということもあり、こういう形でしている。年間行事であるのが、どこもされていると思うが、運営委員会を年6回計画している。それと地区の清掃作業を3回、ふれあい地域サロンを3回という形である。また、八重の夏祭りを8月16日に、これは恒例になっている。八重の村づくり敬老運動会は来年30回を迎える。地区の文化祭はフリーマーケットを取り込んでしている。また、はんや祭りにも参加している。運動会に34年卒業生から35年と今年まで、運動会に還暦者が出席してくれるようになり、非常にありがたいと思っている。卒業生のピーク時の方が、今還暦を迎えている。他にもいろんな組織があるが、特に福寿会の方々が半分地域にいるが、「若い人がせんかよ」ということにはならない。それとか、ムツミ会が30周年の記念紙を発行するというので、これも何かのお祝いをしないとイケないと思っている。

もう少し今よりも良くなれないかなということ、あげてみた。コミセンを集まる楽しみの場にしようという形で思っているところであるが、なかなかである。地域の皆さんの意見を聞きながら、皆さんが参加できるような形にしたい。話し合いの活動となると運営委員会を重視していかなければならない。それからネットワーク等も高齢化が進んでくると、どうしてもそういうふうに進んでいかなければならない。

それから地区の現状を把握して、無理のないことをしていこうとしている。あんまり無理をすると皆さんができないので、できること、できないことを見極めて実施したいと考える。それから先ほど言った、村づくり運動会とか夏祭り等の伝統は続けていこうと思っている。また、地区の資源を活用して、いろいろできないか、味噌等もできないかということで、議題の中にあるので、よい回答を期待したい。農産物の加工品を付加価値を付けられないかということと、校区の人

も八重を利用してほしい。地区内だけでは利用者が少ないので、外部からも利用してほしい。

最後に、私がよく引用させてもらっている言葉を紹介したい。皆さん、ご存じだと思うが、「やる気のある人は、やり方を探し、やる気のない人は、言い訳を探す。」と、これはコミセン全体に左右するのかなと思っているので、やる気のある人をなるべく多くしていきたい。

## 5 副田地区コミュニティ協議会

副田地区コミュニティは本当にありがたい地域だと思っている。財政多難の折に、土地開発を精一杯進めていただいている市長さんをはじめ、市当局、議会の方々にもこの場を借りて感謝を申し上げたいと思う。

それでは、副田の向く方向を少しお話させていただきたい。これだけ多額の財を投入していただいているので、これを無駄にしたくないというのが、副田の考え方である。完成して終わり、温泉センターも出来上がるが、温泉センターが出来上がって終わりというのでは、これでは何にもならない。今、副田が向かう方向は、温泉センターを中心に地域の人いろいろな意見や知恵等を出していただきたいと思っている。副田にも生産者の方もたくさんいらっしゃるし、おいしいものもできる。そういうものを売る温泉センターができればいいと考える。もちろんこれは、副田地区だけではなくて、大馬越にも「しそっぷジュース」というおいしいものがある。それから八重山にはタケノコもある。それから炭もできる。そういうものも販売できればいいなと思っている。まだ館が建っていないので、なかなか具体的なことはでてこないが、そういうイベントもできればと考えている。

来年3月には新幹線も通るので、市長さんがおっしゃっている観光元年、シティセールスも行われている。それに乗り遅れないように、副田の皆さんの知恵を出し合っていきたいと考えている。先輩方もたくさんいらっしゃるし、もちろん、若い人がいないというが、若い人もたくさんいらっしゃる。その若い人たちの声も知恵も出してもらって、まず自分たちができることは自分たちでやろうじゃないか、という取り組みを副田は進めていきたいと思っている。

大馬越の吹田会長もおっしゃっていたが、私も、もちろん、副田だけがよくなればいいという問題ではないと考えている。一方では、私たちの耳に聞こえてくる言葉は、少しどぎつい言い方であるが、「副田はよかね」、「副田ばっかいいね」というような声も聞こえないでもない。ところが、それをそのままに終わらせておいたら、最初私が申したように、全くもったいないことをしてしまうことになるので、もったいなくないように、本当に素晴らしい活動をされている入来の4地区の皆さんと、何か連携をとってネットワークを組んで、自分だけよくなるのではなく、副田も一緒に助け合っていければというのが、私たちの願いである。

実は、温泉場にも、湯ノ山という公園がある。昔は桜も咲いていたし、場合によっては、夜若いカップルが集まった場所でもあったが、今は、寂しいかな、草ボウボウになっている。これを自分たちでも少しでもきれいにして、せっかく温泉場がよくなるので、それと一緒に自分たちの力を合わせてやっていければと考えているところである。それには、まず、副田の皆さんが本当に知恵を出して、声を出して、勇気を出して、副田を作り上げていくこと。その先には、各コミュニティの方と一緒に手を取り合って、いろんな知恵を出し合って、助け合っていければ、きっと副田も乗り遅れないで、新幹線に乗れると思っているので、そういうような方向で進んでいきたいと思っている。

本当の気持ちをいうと、副田に住んで、入来に住んで、よかったね、来てよかったね、と言ってもらえるような副田を作りたいと思っている。それは言いかえれば、薩摩川内市の今ある財産を利用して、薩摩川内市のためにまた恩返しができることになるのではないかと考えている。これからまだまだ良くなると思う。これで終わらせないような副田地区の取り組みを進めていきたいと思う。

## 議 題

### 議題1 (副田地区コミュニティ協議会)

#### 温泉場土地地区画整備事業に伴う分団車庫(詰所)の早期移転について

温泉場土地地区画整備事業が早期完成に向け確実に進んでおり、地区住民の大きい期待するところである。

この整備事業は、衰退した温泉場の復興と併せて道路も狭く火災等の有事に弱い地域の解消が目的だったと思う。

分団車庫(詰所)が現在の場所で事業等が進むと現状よりも立地条件の悪くなることも想定される。このような事を回避しながら事業も進めていただけるとは思うが、可能な限りの早期移転を望むものである。

### 【消防局長】

現在、入来温泉場地区土地地区画整理事業については、事業区画内の住民の方々の仮換地指定が概ね終了したところである。

副田分団一部二部車庫詰所の移転については、今後、移転先及び移転補償費用等を含め地元消防団や地区コミ並びに入来区画整理室との協議を行うとともに、併せて薩摩川内市総合計画実施計画の平成23年度～25年度の3ヶ年度計画枠内での事業搭載に向けて関係部局との調整を進め、地域住民の安全・安心の市民生活の確保と消防

団の活動環境の向上に向けて早期に整備できるように進めてまいりたい。

#### 要 望

火災はいつ発生するかわからず、火災以外のいろんな出動もあるが、他の地区に比べて副田分団の車庫は、前は即道路、後は壁という感じの場所にある。30数名の分団員が利用するが、彼らが出動してくる時、自分の車をどこに置くかが一番の問題でもある。分団の近くに市の所有の土地が数カ所あるが、1～2台しか停められない。近くに高齢者福祉センターがあり、そこにも停めてもらうことになっているが、昼間はいろんな人たちが来ているので、なかなか車を停められる状況ではない。数年前にも温泉場地区で火災があり、分団の方々が速やかな行動をとっていただいたが、帰ってきてからなぜ謝らなければならないのか。車を自分たちが停めていたのが、邪魔になったかもしれないが、一生懸命活動して速やかな鎮火をして帰ってきてからそういった方々に謝っているのが分団の現状でもある。

また、ホースを干す場所が、他の地区に比べてないのではないかとというのが、傍から見て強く思われる場所でもある。分団を移転するのは難しい問題かもしれないが、温泉場地区の活性化事業の中で、市の土地はこの周りにたくさんある。副田分団は各地区の他の分団に比べると担当地区が非常に広い気もする。今の話では、23～25年度中にということだったが、もう少し早く分団の活動が安心してできるような場所に移転ができたらと思っている。できるだけ地域の方々に協力体制は図っているが、分団の方々もいろんなところで仕事をしており、その中で、速やかに参集して土地を確保されるわけである。また、いつ何時火災以外の災害の発生があるかもしれない中、副田の地域性を考えて、速やかに出動できる場所、また、道路に関してもある程度の広さの場所を確保していただければと思う。

#### 【消防局長】

現在の消防団の車庫詰所については、ご指摘のとおり、駆けつけ団員の駐車スペースがないので、新たに造る消防団の車庫詰所については、先ほど答弁した、消防団の活動環境の整備も併せて実施をしたいと考えている。駐車場、ホース干し場、ある程度の車庫詰所の前でいろんな点検ができるスペースを確保してまいりたいと考えている。また、建築の年限については、直接この場で何年度ということは表現できないが、大きな事業になる。総合計画実施計画の中でしっかりと登載をしてまいりたいと考えているので、ご理解を賜りたい。

#### 議題2 (清色地区コミュニティ協議会)

入来麓伝建地区の景観整備について (中の馬場の電柱埋設)

入来麓伝建地区においては、屋敷内のいたるところに電柱が立っており、非常に景観を損ねている。写真家が入来麓にも頻繁に撮影に来られるが、「どこを撮っても電柱が邪魔になる」とよく言われる。他県の同様な地区では、既に電柱埋設がなされているところもある。

地域としては、伝建地区全体を、といたいところだが、まずはメインである中の馬場（旧 328 号線）の電柱の埋設をして欲しい。

何かと厳しい問題だとは思いますが、既に埋設している地域があるということ踏まえ、何らかの方法について保存会を含め検討して欲しい。

また、電柱埋設について、平成 21 年 2 月に本庁（市長・教育長）に要望しており、以下の回答があったが、その後、どのようになっているのか、経過を伺いたい。

※回答内容

「電柱埋設については手法等を研究し、まずは関係各機関と協議を行い専門的な意見を伺い等して勉強させていただきたい。電柱の埋設に関する事業は、文化庁補助以外の各省庁の補助事業導入を研究していきたいと考えている」

#### 【建設部長】

電柱埋設の手法のひとつとして、国土交通省が策定する「無電柱化推進計画」に登載させる方法があるが、この事業の推進には、当該道路管理者である市だけでなく九電やNTT等の電気通信事業者等の事業への参画協力が必要不可欠となる。他の箇所事例からみると九電・NTTについて採算性が事業参画の判断とされているようである。こういうことから見ると、厳しい状況ではないのかと思うが、今後も、情報収集や意向確認等について引き続き研究してまいりたい。

また、電線類の地中化ということだけではなくて、現在、旧国道 328 号沿いに両側NTT線と九電の柱がずっと立っているが、表通りに出さない、裏配線方式という方法も考えられる。そういうことも含めて、先進地である合併した南九州市の知覧、それから出水市の武家屋敷等の調査をしているところである。清色地区の電線については、皆さん、ご存じだと思うが、6,600 ボルトの高圧電線が設置されており、この電柱の移動に特別の制約があるのか、経費面も含めて課題もある。

また、この入来麓周辺地区については、本市景観計画において、景観啓発地区に指定している。入来麓伝統的建造物群保存地区の制度と連動しながら、現在の歴史景観の保全・活用を図ることを景観形成方針として位置付けている。今後、市と地元地区との間で合意形成が得られた場合、景観地区への移行を目指していきたい。この入来麓伝建地区については、景観上重要であると考えている。

## 要 望

伝建保存会の会長をしている。電柱埋設については、保存会を立ち上げた頃からの要望事項であり、正式に要望したいと思っていたところである。今でもほとんど毎日のように見学者が訪れているので、ぜひ、お願いしたい。ここには、団体客よりも個人の方がインターネットで調べたと言ってよくお見えになる。議題に上がっているように、この電柱が無かったらというのが一番おっしゃることである。増田邸の工事が始まれば、まだ見学者が増えると思うので、ぜひこの問題は優先的にしてほしい。

## 意 見

「川内駅に降りると案内板に入来武家屋敷群と表示してあるが、来てみたら、他所に比べたら、萱葺門があって、後は何をみるのだろう。」と、他所を見た人は、たぶん思われる。だから清色城跡もあるという話なので、遊歩道を作って、簡単な資料館のようなものを作っていたら、来る人が多くなるのではないかと思う。

## 【建設部長】

先ほどお答えした中に、他の箇所の事例の話も少しさせていただいたが、この他の箇所の中には、川内地域の国道3号の地中化のこともある。現在、川内高校付近の大小路地区も地中化ができないかということで、3～4年間、国・NTT・九電に要望をしているが、未だに実現していない。市単独ではなかなかできないので、やっぱりかなり長い期間をかけて、なんとか財源を見つけてよくしていかなければならないと思っている。先ほども申したが、電線の地中化ということだけではなく、裏配線、表に出さず、裏の方に電柱を立てて行く方式だが、電柱を立てる建柱車が入っていけるのかということ、その立てられるところの地権者の方の理解が得られるのかどうかということ、通常の低圧の電線ではないということもあるので、まだまだ研究、材料集め等をさせていただかないといけないと考えているところである。伝建地区については、重要なものであるということは認識している。

## 【教育部長】

只今のご指摘のとおり、伝建地区の保存・活用については、当然一体的に清色城跡の周辺整備と併せて今後は、整備活用を図っていかなければならないと思っている。この伝建地区については本市の貴重な観光施設の目玉・文化財として、もっと積極的に市内外にPRをしていきたいと考えている。

## 要 望

今、電線埋設のことがあったが、この地域には公衆便所が一つもないので、公衆便所を造ってほしい。今日も見学者の方がいらっしゃったが、山城に道路がない、車があちこちするような道路がほしい。知覧や颯娃等では、山城に車が通って行くということである。見学に来られるのは大概年寄りの方が多い。車から降りたら、トイレ、それから山城に連れて行ってくれと言われても、車が通らないので、年寄りはとても入来（いらい）の山城には行けないような状態である。あちこちからこのような質問をされたので、公衆便所と山城に対する道路整備をお願いできないか。

## 【教育部長】

本年度から国土交通省の補助により新たに、街なみ環境整備事業を実施。同事業に取り組んでおり、現在、その中で街灯設置、トイレ整備等の景観整備を主として事業計画を策定中であるので、今後この事業の中で、街灯設置・トイレ等整備については取り組んでいくことになると思う。それと合わせて、清色城のところの散策道路の取り付けの関係の質問についても、できるだけ積極的に前向きな方向で検討させていただきたいと思っている。

## 意 見

今の件で、一点。鹿児島国際大学の名誉教授であり山城の研究の第一人者である三木靖先生は、「山城というのは、本来は年寄りが簡単に行けるところでは山城ではないのだよ、そういうことを考えて整備しなさい」と私に助言された。参考までに。

## 議題3 （朝陽地区コミュニティ協議会）

### 登録有形文化財の石橋「新大橋」の景観等の整備について

朝陽地区には、国の登録有形文化財の石橋「新大橋」がある。明治42年4月12日竣工、石橋二連アーチ式（めがね橋）で橋長24m幅員3m、アーチ径間10.8mで、平成16年11月8日に国の登録有形文化財に指定されている。

このめがね橋には、見学者やカメラマンが多数訪れている状況である。朝陽地区の観光スポットになっているが、近くに駐車場や案内看板等がないため、見学者等の車が県道（42号線）の路肩に駐車しているので大変危険な状態であるので、駐車場の整備及び案内板の設置、また、架橋下の中州の除去も合わせてお願いしたい。

#### 【教育部長】

登録有形文化財の石橋「新大橋」の景観整備についてであるが、新大橋の案内板の石柱を後川内川の左岸側にすでに設置しているところである。

また、駐車場整備については、新大橋周辺地に駐車場用地として、借上げあるいは購入する等確保できる場所がないか検討してみたいと思う。なお、新大橋の案内や駐車による危険表示については、直ちに取り組むこととする。

#### 【建設部長】

架橋下の中州の除去については、当橋が架かる「後川内川」は、今年の9月の末に5地区のコミュニティ協議会長連名で、後川内川だけでなく、樋脇川に関する中州の除去の要望書が出されている。これらの河川については、県の管理河川であるため、橋下の中州の除去については県へ要望してまいりたいと考えている。

#### 要 望

用地については地権者に相談済みである。隣にある用地なのだが、排水路のかさ上げをしないと入っていけないので、斜めに駐車している。それと駐車場にした場合は河川側に防護柵を立てないといけないのではないかと考えている。それから、看板については、有形文化財としての石碑はあるが、それは橋を渡ってから先の方にある。県道の方からよく見えるので、カメラ持ちの方がたくさんいらっしゃる。よろしくお願ひしたい。

#### 議題4 (大馬越地区コミュニティ協議会)

##### 若い住民への住まいの確保について

地区では、秋の収穫祭として「といあげ祭り」を行っており、この祭りでは、準備から後片付けまで地域出身者の若者が、大勢協力をしてもらっている。彼らは殆どが地域外に居住しているのが状況である。

地域内に住宅があれば住みたい彼らだが、以下のような現状で住居を確保することが難しいところである。

- 1 空家はあるが、家財道具が入っており、借りられない。
- 2 市の補助制度で、土地があれば業者が住宅を建設し、市の借上方式もあるが物件が悪い。
- 3 農振地域に指定されており住宅が建築できない。
- 4 市では新規の市営住宅は建設しない。

大馬越地区には11の自治会のうち、3自治会はゴールド集落となり、高齢化率は益々上昇しつつある。ぜひとも何か良い政策を講じていただき、せめて地域出身者を地域内に居住出来るような住宅政策を何か講じていただくようお願いしたい。

#### 【建設部長】

住宅建築の面からの回答である。大馬越地区については、平成17年度の「ふれあい市民会議」の中で、住宅建設の要望が出されていることから、本市が現在、取り組んでいる借上型地域振興住宅の建設が出来ないかの検討をしてきた。

この借上型地域振興住宅は、公共又は民間の土地に民間の事業者が住宅を建設し、それを市営住宅として市が15年間借上げる制度であり、これには児童減少地域、地域の小学校が複式学級であることが条件となっているが、大馬越地区はこの条件に該当することから、建設が可能であると考えている。

大馬越地区には、現在、大馬越・鹿子田・松尾の3ヶ所に26戸の市営住宅を管理しており、なかでも大馬越住宅4戸については、建築後40年以上が経過し老朽化が著しいことから、今年度、解体を行う予定である。

解体後の建替えについては、現地が急傾斜地崩壊危険区域に指定されていることと、背後の対策工事は完了しているものの、前方のガケ部分も高さが7mと高く、住宅建設地としては適さないと判断している。

従って、この借上型住宅を建設するための土地の紹介等を地域の皆さまにご協力いただきたい。

#### 【農政課長】

今、一つの案でお聞きしているところが、浦之名の字栗下地域というところである。ここは昭和50年から57年まで県営補助整備により、土地改良事業で整備された第1種農地、優良農地ということで位置付けられている。当然手続きをすれば、可能性もあるわけだが、意外に条件が厳しい。まず、農用地除外するには、①農用地区域外には代替え地がないこと。②農用地の集積に支障を及ぼさないこと。③農用地域の農用地区域の外周部にあること。④農用地区域内の保全施設に支障を及ぼさないこと等々、様々な要件をクリアしなければならない。それと、この場所については、中山間地域直接払い制度の交付金を受けていらっしゃる。それから、農地水環境保全向上対策事業も活用されて交付金を受けていらっしゃるの、県とその代表者の方との協議も必要になってくると思う。

## 意見

大馬越地区の質問1について、空家はあるが、家財等が入っていて借りられないとあるが、これは市の方がおふれをしていただき、もうちょっとうまくしていただいたら、可能だと思う。これから先は、どんどん人は少なくなるし、老人は増える。そして空家が増える。ということで、何らかの手を打たないと、まちづくりとって、いろんなことをしているが、人間がいなければまちづくりも何もない。だから、まちづくりということは、新しい血を入れないと、なかなかまちづくりにならない。それで、例えばの話だが、「家と土地を貸すよ」と、当然地主との関係もあるが、「土地付きだよ」、「3年以上住んだら市民税をタダにするよ」というような話で、なんとか新しい血を入れていく必要があるのではないかなと思うが、どうか。

## 【建設部長】

非常に答えにくいご質問だが、空家で家財道具が入っているということについては、あくまでも個人の財産である。その取り扱いについて、所有者の方の同意がないことには、例えば市が骨を折るというご意見もあるが、家財道具が中に入っているということなので、やはり一番地区に住んでいらっしゃる方の子孫とかお子さんが出て来られて、できたら、地域の方々の方からご相談されたら、やりやすいのではないかと考えている。

私から借上型地域振興住宅という話をさせていただいたが、まだ本市の制度としては、今ある家を借り上げてというのは、現時点では考えていない。あくまでも市営住宅として民間の方に建設していただいて、それを市の住宅として運営していくという方法である。今ほどのことについては、研究させていただきたいと思う。

## 議題5 (八重地区コミュニティ協議会)

### 八重地区活性化のためのコミュニティセンターの増改築(調理室・事務室)について

八重地区としては、地域活性化のために、地元の特産物を活かした加工品や菓子類・味噌・調味料等の製造に幅広く活用できる環境を整えることで、センターの利用率を増やしていきたい。

特に近年の高齢者増加を鑑み、センターを高齢者や婦人会等とのふれあいの場とする事で、高齢者も利用しやすい環境を整えていきたい。

その為、狭く使い勝手が悪い調理室を拡張して多人数で活用できる場にして欲しい。

また、事務所がセンターの裏側にあるので、センターへの来訪者の確認が取りづらく、見知らぬ訪問者に気付く前にセンターに入室されることがある為、入口側(センター正

面)に事務所を増設して欲しい。

#### 【企画政策部長】

調理室、事務所の増改築の要望であるが、市内にある48の地区コミセンの維持修繕等については、担当課コミュニティ課で毎年各地区コミから要望をお聞きし、また、現地調査をしながらその緊急性等を勘案し、次の年度の予算に反映し、対応してきている。

八重地区コミュニティセンターでは、平成18年度から平成21年度までに、屋根改修工事・風除室増築工事・調理室床改修工事等を行い、昨年度は調理室のコンロも取り換えも実施している。八重地区においては、世帯数・人口少ないが、コミュニティセンターを拠点としながら特産品づくり、高齢者のふれあいづくり等、地区一体となって地域活性化に一生懸命取り組んでおられることは十分承知している。また、市長も八重地区の現状そしてコミセンの施設の状況等十分承知しており、また、私も議題が出されて改めて現場を確認させていただいた。今回の要望に関しては、施設整備の予算措置、確保に向けて積極的、前向きに取り組んでまいりたいと思っている。

今後来年度の予算編成、査定、そして市議会における議決といった手続きもあるので、確定しているというものではないが、住民の皆さんが利用しやすく、そして、地域の活性化になられるよう、最大限の努力をしてまいりたいと考えている。

#### その他意見・要望

##### 要 望

4つほど要望をしたい。

- 1 各コミュニティ協議会への補助金は、人口により交付されているようだが、コミセン活動や地域の活動をやればやるほど、お金が必要になる。地理条件、立地条件が悪ければ、余計ガソリン代もある。それと活動をしている協議会、そうじゃない協議会の補助金の増減をお願いしたい。
- 2 デマンド交通についてである。デマンド交通は朝の10時以前だと前の日の7時までに予約をしてくださいとのこと。先日午前10時頃に使いたいの電話をしたが、それは前の日に予約をしてもらわないと駄目であった。せめて1時間くらい前までにしてほしいような感じもする。それと、利用数が少ないということだが、どうしても時間帯が悪いみたいである。朝の早い時間とか学校の生徒に合わせた時間帯、JRのバスとの関係もあるのだろうが、その辺のところももう少し考えてほしいと思う。
- 3 道路問題である。町内の道路は、入来町時代に昭和40年代だと思うのですが、

再舗装をされたままの道路が多い。その道路に今、鶏、牛等飼っており、15トン車の大きな車が通る。それに対応した道路がほとんどない。今の道路では無理な輸送方法じゃないかと思う。ある業者さんは朝早く坂のある道路をエンジンをふかしながら上がる。日曜日の朝8時くらいは勤めの人はまだ寝ていると思う。そういうところの業者さんには、もうちょっと地域住民のことを考えて、配送方法を考えてほしいと思う。

4 旧川内市内は、人口が多いので光ケーブルの配線は多分に進んでいると思うが、入来、まして人口密度の少ない地域では、光ケーブルが通っているところはほとんどない。あるのはコミセンにひいてあるだけである。若い人は、インターネットの時代で能力が長けていると思う。そういうのもある程度業者さんとかと交渉してもらいたい。この地域の電波状況の悪い中、テレビ等あちこちで共同アンテナを設置している。ゆくゆくは、それも全部光ケーブル一本あれば済むと思う。そういうことも進めていってほしいと思う。

#### 【企画政策部長】

まず1点目の地区コミュニティ協議会補助金の増額について、それぞれのコミセンの活動状況、あるいは地域的にはガソリン代がかかる、そういったいろいろな条件が違う、増額をしてほしいという要望だった。

当市担当部課としては、現在コミュニティの世帯規模割200世帯以上区分を設けているが、規模割、それと世帯数に応じて加算している。この他に事務負担割というものもあるが、一定の基準を設けて交付金、補助金を交付せざるを得ないという運用上の問題があるので、この点をご理解いただきたいと思う。なお、昨年度から200世帯未満と200世帯以上とでは、大きく運営補助金が減額されるという実態があったので、この影響をできるだけ緩和して市民の方々への負担が軽減されるように制度改正はしたところである。この点をご理解いただきたいと思う。

なお、この他、地区コミ協への運営補助金とは別に地区コミ活性化補助金や提案公募補助金といった補助金もあるので、事業内容、補助対象要件あるが、ぜひ、そういった補助制度への取り組みも考えていただければと思っている。私どもも、努めて情報提供はしていきたいと思う。

それから地区コミへの助成ではないが、ゴールド集落、地域的にかなり厳しいところに対しての自治会運営補助金とかあるいはそういったゴールド集落を抱えます地区コミに対する助成補助金というのも本年度から創設したところである。ご要望に直接的な回答はできないが、以上のような内容であるので、ご理解いただきたいと思う。

それと4点目の光ファイバーの関係であるが、ご案内のとおり光ファイバーは公共施設はネットワーク通じているが、なかなか市民の皆さまへくまなく浸透していくところではない。これは公共だけでは絶対できることではないので、関係事業者へ呼びかけながらやっていきたいと思っている。現在、その目処は立っていないが、

事業所との連携し、話も進めてまいりたいと思う。

#### 【建設部長】

3点目の道路整備の要望についてであるが、おっしゃるように14～15トンの貨物車に対応できる道路は不十分だと考えている。ただ、私どもも現在道路改良とか実施しているが、なかなか各地区からの要望件数が多いので、対応できないというのが実情である。ここに上野議員いらっしゃるが、一生懸命頑張っていたが、なかなか確保ができないというのが実情である。また、舗装の状態で簡易舗装だということで、そういうのが傷んでいるとかいう話については、ご連絡いただければ、現地調査に行き対応していきたいと考えている。それから朝早く大型のトラックがエンジン音をふかして上がっていくということであるが、ここについては、そういう地域住民、周辺の住民に配慮ができないかというのを業者の方に何とか対応できないか検討させていただきたいと思う。

#### 【企画政策部長】

2点目のデマンド交通について、担当は違うが、私の承知している範囲で答えさせていただく。7月から試験に入っているデマンド交通の予約のあり方について改善の要望ということであるが、ご案内のとおり今回入来地域において、デマンド交通実証実験という形でスタートしている。いろんな不都合な点とか、改善すべき点とか利用者の方あるいは市役所、業者の方で浮き彫りになってくることと思う。ご意見については、その中の一つだと思っている。今すぐ予約のあり方を変えるというのは難しいかと思うが、いろんな形で出てくる問題点、課題点を整理しながら次に繋げていきたいと考えている。

#### 要 望

- 1 市長さんが先ほどまちづくり、観光の価値ということを言われた。それで、小さな声だが、藪牟田池の取り付け道路の途中で池が見渡せ、写真を撮れる場所が2ヶ所ある。ところが、1ヶ所はさびくれてちょっと不安全で、もう1ヶ所は雑木で池が見えないという状況である。それを何とか対応していただきたいと思う。
- 2 次にパラグライダーの基地があるが、あまり利用されていない。あまり知られていないということもあるのだろうが、着陸場が、素人が考えても高い技量を持った人でないとなかなか狭い場所には難しいのではないかと思う。したがって、稲刈りが終わった後の田んぼを契約して、着陸場所を増やす等していただいて、かつ、冬の間にも大会でも開き、一人でも多く人を入れて、観光の目玉にするということであ

る。

- 3 次に、清浦ダムであるが、あそこの水が少ないのはなぜか。例えば、清浦ダムに水をもう少しためて、ワカサギでも入れて、釣り人を呼び込むと、ついでに大馬越とか八重とか、鹿児島大学の肉とか、イノシシの肉とか、シカの肉等をひっくるめて何らかの事業はできないか。

#### 【建設部長】

まず、第1点目の藺牟田池への取り付け道路に展望できる場所が2ヶ所あるということで、施設の老朽化しているところに関しては、現地調査をして対応していきたいと思う。また、前が雑木で見えないということも、その付近の地権者の方を調査してみたいと思う。それからまず清浦ダムの件であるが、これは基本的には防災ダムということで、水をそもそも貯めるダムではないので、そこは基本的な考え方の違いがある。水を貯めるというのはなかなか難しいのではないかなと思うが、地域活性化に役立てるといっては大変いいことだと思うので、別な方法がないかどうかというのは検討していく必要があると思う。

#### 【観光交流部長】

2点目のパラグライダー、愛宕ビスタパークの関係だと思うが、そちらについての回答である。着地を一般の田んぼにというのはどうかとあったが、直感的には事故等が仮にあった場合を考えると、かなり難しいのではないかなと思う。お客様が少ないということについては、PR不足という部分もあるので、そういった部分に力を入れたいと思う。あと、ご指摘のイベントの開催については、今、業者さんに指定管理をお願いしているので、そちらと連携をとりながら、できないか、対応させていただきたいと考えている。

#### 意見

今日の資料の表紙に橋が載っているが、これは今使われていない。なぜ使われていないのか。なぜ、ここに架けられたのか不思議に思っている。入来で合併前にできたものである。きんかんの里にある三連水車も全然使っていない。これは、おそらく価値はない。せっかくあるのに入口は人が入れないようになっている。これはやっぱり地元の人たちも利用してほしいとおっしゃっている。

#### 【建設部長】

ここに掲げている写真は、清浦ダムのところの人道橋と考える。これは人が歩く橋であるが、入れないかどうかは認識がないので、調査を試みる。

## 意見

内之尾自治会は限界集落であるが、私たち棚田グループはゴールド集落で光っていると自負している。でも残念なことに、私の大切な先輩が今年2人入院されて、今からどうやってこの棚田を守っていかうかと、ものすごく悩んでいる。来年は地金集落、地金グループになるんじゃないかと心配でしようがない。

先ほどから清浦ダムの話が出ているが、私が知っている限り、昨日も3つのグループがカメラを提げて、清浦ダムから棚田に来ていた。先ほど、国指定の入来麓もカメラの話が出たし、朝陽の眼鏡橋(新大橋)もカメラの話が出た。棚田もカメラマンがいっぱい来る。田植えの時期とか稲刈りの時期等、農美展に出品するつもりで来たとか、いろいろな方々が来て写真を撮っていかれる。清浦ダムについては、私たちが内之尾1号線に始めたのだが、愛子様の誕生日の時に、誕生日記念として、当時の大馬越分館の人たちの協力を得て、73本の木を植えたのである。宅地周辺に植えるところがなくなったので、今度は、ダムの中の水のたまらないところに紅葉を植えた。大馬越小学校の卒業生の方々にも校長先生をお願いをして2回ほど植えてもらった。本数でいえば100本くらいある。私が死ぬ頃には紅葉の池になるのではないだろうか。去年までは棚田グループで下葉刈りをしてきた。合併前から年に1回草払いをしてもらっているが、カヤが伸びない程度の時に草払いをしてもらえれば、せっかく植えた紅葉が枯れないのではないだろうか。合併前からお願いをしているが、年が明けてから草払いをして、今のうちにしてくれない。せっかく赤い紅葉が色づき始めているのに、これを草の中から頭ばかりが見えている紅葉にしては、かわいそうじゃないかという気がする。私たちが地金グループになる前までは、なんとかするが、今年はちょっと下払いをする元気がない。今年は県主催で田植えイベントをするつもりで、コミセンをお願いして、コミセンで昼ご飯を食べるように段取りをしていたが、いざという時になり口蹄疫で中止にした。県の人たちで作っている「ふるさと総務課」というNPOのグループや川内の生き物クラブの中のNPOの人たちも一生懸命に私たちを応援してくれているが、私たちの力ではどうしようもできない。せっかく草払いをするのだったら、せめて植えた紅葉が枯れない程度に、ダムの中の草払いを早めにしていただければ、ありがたいと思う。これには、お金もかからないし、時期を早めるだけなので、やるとなると、できることだと思う。

## 【建設部長】

せっかく草払いをするのであれば、やっぱり役に立つものでなければいけないので、こちらの方については、支所と十分協議をさせていただきたいと思う。

## 質 問

市営墓地についてお聞きしたい。向山公園に市営墓地があるが、確か90区画ほどあり、利用状況が非常に悪く、半分弱くらいしか利用されていないと思う。旧入来町時代に作られ、開発された経緯でコストがかかったということで、確か1区画が30万円ほどだったと思う。利用者が非常に少ないというのと、墓石の形とか規制があるというふうに聞いているので、せっかく市営墓地、場所もいいところであるので、何かしら利用推進について考えを持っておられればお聞きしたいと思う。

## 【市民福祉部長】

今日は、環境対策監が来ていないため、私の方で回答させていただきたいと思う。

今の質問は、値段も少し高いのではないかとということ等であると思うので、この件については、全体の利用区画数の状況を踏まえて、再度、調査、ピラ等を支所とも相談の上、地元の方にお知らせする仕組みを作っていきたいと思う。環境対策監へ伝えておく。

## 意 見

一番大事なことが抜けていると思う。市長が冒頭、少子化対策で、中学生まで医療費の無料に取り組んでいるという話をされたが、この地域においても7月末か8月初めに教育委員会の方から来られて、学校の統廃合について説明があった。それがどういう状況になっているのか、入来地域のコミセンからどういう形で市当局の方へ要望が出されたのか、それで市当局としてはそれをどういう形で何年度から実施していくのか、入来小学校の方へ大馬越小と朝陽小を統廃合する、副田はそのまま残し、入来中学校も1校のままでそのまま残すということで第1段階としては、そういう形で、説明会があったと思う。それで、そういうことが1番この地域を盛り上げる中で、校区のそれぞれの学校がなくなるということは、それが念頭に来ないといけないことなのに、ここでは誰も発言されなかったというのが、非常に心苦しいというか、私もこの地域に生まれて50年になるが、悲しいという気がしたところである。市当局としてもそこら辺を一番最初で、答えていただきたい。

それと、少子化対策で行政サイドの方がもう少し、医療費をタダにするとかそういうのではなくて、若者がこの地域で働ければ、子どもたちもそれなりに住めれば、人は増えて行くと思う。行政サイドにしても市の職員を減らそうとかそういうことばかりの話が出て、公務員そのものが自分たちの職場を圧縮して行って、それなのに民間で働く人が増えていくはずがない。この地域になんらかの企業なり、それなりのものを持ってきて活性化していかないと人は増えていかないわけで、合併して最初は10

万人だった人口も今10万を切っている。そういう形で今後、どれだけの見通しで、少子化対策に力を入れていかれるのか。

私はこの地域の川薩清修館高校のPTA会長をしているが、樋脇高校と入来商業高校と統廃合するとき、薩摩川内市としては、樋脇高校の方に新しい学校を持っていきたいという回答をされた。県当局の方が入来商業高校にすると決まり、当初一年目だけ定員に達成したが、二年目から定員割れの状況を起こしている。定員割れの原因そのものにも地域内の特性があるからそういう形になっていると思う。なぜかという少子化でどんどん子どもは減ってきているのにそれに対して、川内高校、川内商工は8学級のままで、削減されない。そういうことを県当局に言っても、それは教育委員会が考えることだから、県が考えることだからといって、教育サイドとしてはそれぞれ責任の擦り合いである。市当局としても、そこをどう考えて、教育的なところをを考えて進めていくのか、そこら辺のところも含めて答弁していただければありがたいと思う。

#### 【教育部長】

教育委員会の方では、今、ご指摘のとおり、学校再編の基本的な考え方と具体的な構想についてまとめた学校再編に関する基本方針案というのを今回策定し定めた。そして、この基本方針案の取り扱いについては、5月から9月までの間、市内15カ所でこの基本方針案の教育委員会としての考え方を住民の皆さん、あるいは保護者の皆さん方に説明して、そのご理解ご協力をお願いしてきたところである。いろいろ説明会の中でも様々な意見要望等が出てきた。今現在、こういった住民の方、あるいは保護者の方々からいただいた意見要望等を参考にしながら、基本方針案を基本方針として確定するための検討作業に入っているところである。

だいたい今月いっぱいくらいを目処に、その基本方針としての確定作業を終わりたいと思っている。その基本方針案を作ったら、再度住民の皆さんあるいは保護者の皆さん方に今度は基本方針の説明をしまいたい。そして、ご理解ご協力を求める作業をしていきたいと思っている。そして、その説明会が終了したら、今度は各地域でそれぞれ学校再編の進め方についての考え方、あるいは検討をしていただいて、そして、あくまでも地域の、あるいは保護者の理解協力が求められた地域から学校再編の推進に向けての取り組みを検討していただきたい。そういうお願いをしまいたいと思っている。

今、現在、私どものこの学校再編に関する基本方針案の取り扱いとしては、そういう状況であり、いずれにしても、学校再編の問題については、保護者あるいは地域住民の皆さま方のご理解とご協力を得なければ、当然取り組めない課題であるので、その辺は今後十分、私どもの方もいろいろ努力をしまいたいと思っている。

### 【市民福祉部長】

少子化対策について、市民福祉部サイドの事業について紹介と回答をさせていただきたいと思う。

市民福祉部では、先ほどあったとおり、中学校までの医療費の無料化であったり、現在進めているのは、保育園の定数増である。それから新たに認定こども園である。新たに80人の定員増も図って、なんとか待機児童をなくそうと取り組んでいる。

国においても、22年度の補正予算で子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの基金を増設するということであり、これについても、市の方が子宮頸がんワクチンについては全額の助成というのも市議会の方で答弁されているので、23年度には、これら3つのワクチン接種の予算要求をしていこうと考えている。

また、薩摩川内市は小児科のドクターあるいは済生会あるいは出産期の整備が一応整っており、余所に比べると、子どもの医療については、恵まれた地域であると言われている。こういったものもシティセールスと一緒に今後PRをしていきたいと考えている。

### 【企画政策部長】

少子化とは直接関連はしないが、若干関連のある人口増に向けての取り組み、考え方を説明させていただきたい。

只今のご意見で、企業誘致等々を進めて、地域の活性化を図っていくべきだというご意見だったが、これはまさにその通りだというふうに考えている。ただ社会情勢こういう状況で、なかなか企業誘致というのは大きくは進んでいないというところであるが、やっぱり企業誘致、雇用の場の確保というのは、地域の活性化、人口増に大きくつながるものと考えている。

この他3点ほど説明させていただくが、冒頭市長の方からもあった観光交流部シティセールスを強力に推進していくんだということがある。本市の甌を含めて、いろんな地域の資源・文化・芸能、いろんな魅力あるものがある。こういったものを市民へも広く深く知っていただき、それは市外の方々に知っていただくことによって、市外の方に来てもらう。定住もそうであるが、交流という形でも、人口増、交流人口、定住人口の増加というものもあると思う。そういったことにも進めていきたいのが1つ。

それともう一つ関連するが、入来は入来で豊かな自然とか景観とかある。そういったものを活かしながら、地域の中で産業を興せないかということで、地域連携型観光産業の創出ということで今後研究していきたいと思っている。大規模な企業を作るとか、事業を立ち上げるということはないが、地域の資源を生かして、地域の方々が産業を立ち上げられないかということがある。

最後になるが定住促進、人口増という面で、これまで住宅取得補助、新幹線で通勤される方の補助制度を設けているが、今回制度改正の時期を迎えており、これまでの

制度を拡充する、特に子育て世代を呼び込むようなインパクトのある制度内容にできないか現在検討しているところである。

#### 意見

目標数字のようなものは考えていないのか。人口がこれだけなのを今後5年間について、これだけに減少を止めたいとか、ここが目標ですというのがないと…。

方法が3つあって、16年後まで高校に入る数というのは、だいたい分かってきているわけで、そうなったときに薩摩川内市には3校の高校が必要なのか、2校でいいのか。そこら辺の所もある程度、青写真を作った動きの中で計画していかないと高校を選択するときに、子どもたちにしても廃校になる学校になぜ行かないといけないのという声も合併するときに聞いた。そういう子を自分たちの地域から出したくない。

#### 【市長】

高校再編については、県の方です。県の方も何年たつてどれくらいになるのかということ等考え、基準は作っている。そういう基準の中で、先にあった樋脇高校から入来商業の方へ統合が流れたわけである。したがって、人口がどこも一極集局型になって日本はどんどん地方は切り捨てられているような気がする。もちろん財政も先ほど言った通りである。したがってなかなか、企業誘致をしても今のこの不景気な時代に、かなり難しいのが現状である。しかし、それに勝つためには地域間競争というのに薩摩川内市も切り込んで行かなければいけないということで、当然ながら入来地域においても企業誘致の斡旋をしているが、なかなか難しいというのが現状である。

したがって、小学校・中学校についても市の教育委員会が、今後についての動向を見ながら、なんらかの形で進んでいかなければならないということで考えていて、それについては、先ほど教育部長が答弁した通り、地域の皆さまの意見を聞くと、そのためには、何かたたき台がないと行って、どうですか、どうですかでは話にならないということで、基本方針を作っているところである。そういうことを十分ご理解いただきたいと思う。

それと、このまちづくり懇話会というのは、今、2つに分けている。1つは各地区での最重要課題を1点ずつ挙げていただき、コミュニティ協議会長さん方を中心にして、絞られて各地区から出されたわけである。そして、今の意見交換というのが、できれば皆さん方の意見を聞きたい。また、この会をするようにして今、2巡目だが、それをどのように今後行政に生かしていくかということである。このようにご理解いただきたいと思う。いろんな意見が皆さん相当あると思う。

それこそ1市4町4村が合併して、まだ十分な一体感がなされない中で、それぞれあるが、冒頭言ったとおり、借金は返さなければいけない、貯金をしていなければ、何か大きな仕事をするにもできないということでもあり、逐次いろんな形で、バラン

スのとれた行政をしなければならないと思っている。予算の面からいくと4町4村の中では入来が一番予算を付けている。上野議員の力があるのは事実だが、ただ私としては、やはり均衡ある発展を図るために、バランスだけは考えなければならないと思っている。

それと合併の時に、いろいろそれぞれの町村で計画されたのは、できるだけ実施したいとしているので、なかなか道路も含めて予算を配当するのが難しいが、そういう意味を含めて地域の皆さん方の意見を聞きたいと思っている。意見交換の中でも、本当に素晴らしい意見が出されているので、どの時点で予算化できるのか検討してまいりたいと思う。

今日はたくさん意見を出されて、意義ある意見交換だったと私は思っている。今後また2年に1回は来るつもりでいるので、地区コミュニティ協議会長さんを中心に、いろんな意見を出していただければ、ありがたいと思う。